

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2月 26日

事業所名 障がい児童デイサービスセンターくれよん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		デイルームと静養室に分け使用している	デイルームの利用人数が多い場合、狭く感じるため今後も活動内容を工夫していく。
	2	職員の配置数は適切である	○		利用者数に応じて調整している	シフト表を基に安全な支援ができるよう事前に話し合い、管理者が定期的にチェックする。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	1階のデイルームを中心に活動している	2階のデイルームはエレベーターがないため現在使用していない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	PDCAサイクルはしていないがなるべく毎日話し合うようにしている	パート職員なども含めて、広く職員の意見を聞ける体制を作り、実行していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		2年前から続けて実施	保護者の方向けに利用に関する感想や要望のアンケートを実施している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		掲載や紙媒体で公表	ホームページ及び会報等でお知らせしている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者からの評価は行っていない	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修の機会の周知を定期的に行った	周知するだけの任意参加は参加しづらい部分もあったので、直接職員に声掛けしていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		会議にて一人一人に沿った個別支援計画を立てている。	今後も児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に出席し、アセスメントを行いニーズを把握し計画書の作成を行っていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化されたアセスメントシートを使用している	今後もアセスメントシートを活用して、情報を収集していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		チームで話し合いを行いプログラムを立てている	同様のチームで話し合い、PDCAを明確にして発展させていくのが理想である。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		放課後と休校日に分けて立案している	利用者各々の好みの活動に執着してしまうことがあるが、皆で楽しむ活動もできるよう工夫していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○	休校日の課題は考えている	平日は時間が短いため、目標が決めづらいので、楽しんでもらうための工夫をしていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個々に合わせて活動を適宜組み合わせ計画作成している	今後も個々の特性や状況に応じた計画作成をしていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		シフト表を活用した役割分担をしている	打合せは必ず行うが、全体での朝礼等がないため、分担の確認を全職員間で行うようにしていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その日の振り返りは必ず行っている	職員間での情報共有によって、次の目標や改善点を設定していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録は細かくつけている	情報共有を徹底し、より正確な記録をとり、支援の検証や改善に繋げていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月毎にモニタリングを行い、見直しをしている	現在同様、見直しをするときは支援会議等を開催し、合同で判断していく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		自立支援活動、創作活動、余暇の提供はできている	今年度は新型コロナウイルスの影響で活動が制限されたため、当面は室内での活動を計画していく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参画している	今後も児童の普段の様子を十分に伝え、課題の検討ができる職員が参加することで、さらに適切な支援に繋げていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		迎え時に様子を聞いたり電話にて下校時間や行事等の確認をしている	学校との情報共有や連絡調整を適切に行い、安心して利用できる環境づくりをしていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	現在看護師は配置していないため、受け入れていない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	契約時、情報収集と今後の支援への助言を頂くよう努めている	現在は保育所・幼稚園等とは連携していないが、各専門機関と連携し児童の理解に努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		障害福祉サービス事業所より依頼があれば提供している	適切な支援をそれぞれの事業所で提供できるように各関係機関と連携を図り、途切れない支援を目指していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関と連携し助言を受けている	今後も個々に沿った支援を行うために必要に応じて専門機関と連携していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	現在は交流する機会はない	新型コロナウイルスの影響により、当面は交流する機会を作るのは難しい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	今年度は積極的に参加はできていなかった	スキルアップや地域の把握のために積極的に参加していくようにする。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳を活用している	連絡帳や送りの際に状況を伝えている。急ぎや会うことが難しい時は電話対応を行っているが、ゆっくり話し合う機会をなるべく作っていく。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	ペアレント・トレーニングの支援は行っていない	保護者からの相談があった時は、専門機関と連携し対応する体制は整えている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に重要事項説明書を用いて説明している	今後も内容に変更があった際に随時説明していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者からの相談に応じている	直接のコミュニケーションの場が限られているため、普段から相談しやすい環境づくりに努めていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	保護者会などの開催は行っていない	保護者同士の交流を目的とした会は行っておらず、新型コロナウイルスの影響もあるため、今後の課題の一つとして検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		重要事項説明書に記載し、契約の際に説明している	苦情等があった際、迅速かつ適切な対応をするように努めている。また、苦情内容や原因を検討して、改善につなげている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	会報等のお便りは発行していない	活動できる範囲ではあるが、保護者の方にも様子を知ってもらえる体制を整えていく。
	35	個人情報に十分注意している	○		全職員、雇用契約時に誓約書を取り交わしている	職員会議等で職員に伝えており、今後も継続していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		児童個々に応じたコミュニケーションを取っている	今後も個々の障がい特性を踏まえ、意思疎通や情報伝達の際は十分に配慮していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	施設内の他の事業所の職員との交流はある	新型コロナウイルスの影響で開かれた行事を行うことは当面難しいと思われる。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		緊急時等の対応は計画書に記載し、回覧等で周知している	災害防止(台風)や感染症対応は、必要に応じて連絡しており、今後も継続していく。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	本年度は参加できなかった	以前は消防署と共同で訓練を実施していたが、新型コロナウイルスの影響でしばらくは独自開催の方針としていく。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		本年度は全員1回以上の参加はできなかった	任意での参加のみに留まらず、全体会議で研修への参加(必須)と促していく。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		現在車中での転倒防止に固定ベルトの使用に関する旨を計画書に記載し、了承を得ている	利用者の障がい特性を踏まえ安全を重視しながらも、児童並びに保護者の意思を尊重していく。話し合いによる合意の下で、了承を得て計画書に記載していく。また、常時改善方法を検討していく。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	ご家族と相談して対応	現在食物アレルギーの方は利用されていないが、利用される場合は保護者と常時相談していく。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		報告書を作成後回覧周知している	今後は事例検討して改善に繋げていく。